【連載】
老健仕事人 薬剤師

老健施設での「薬剤師業務」について考える［第1回］

十川友那［そごう・ともな］
三豊総合病院企業団
介護老人保健施設わたつみ苑（香川県）

皆さんは老健施設での薬剤師の業務として、「調剤」以外に、どのような業務を思い浮かべますか？高齢者への薬剤適正使用はとても重要な問題で、薬剤師は薬剤の効果や副作用をモニタリングしながら、薬学的視点で継続的に介入することが強く望まれています。現在、病院では薬剤師からの積極的な処方提案による薬剤適正使用への取り組みが進んでいますが、このような取り組みは老健施設でも実施されるべきだと考えています。

一方、老健施設には入所者300人につき1人の薬剤師を配置するというルールがありますが、300人の入所者を超える施設は少なく、実際に薬剤師が常駐している施設も多くないというのが現状です。近隣の調剤薬局やドラッグストアなどに委託し、外部の薬剤師が対応しているケースも見られます。

今回、このような機会をいただきましたので、3回の連載を通して当施設での薬剤師の取り組みを紹介しながら、老健施設での薬剤師業務について考えてみたいと思います。

わたつみ苑について

当施設は、香川県と愛媛県の県境に位置する、香川県観音寺市豊浜町にあります。三豊総合病院企業団が運営管理を行っている、併設型の老健施設です。もともとは1996年に旧豊浜町が設立し運営を行っていましたが、市町村合併により、2005年に観音寺市・三豊市の2市により組織された三豊総合病院組合に経営が移譲され、三豊総合病院組合介護老人保健施設わたつみ苑として新たにスタートしました。2010年に地方公営企業法の全部適用を受けて、現在の三豊総合病院企業団介護老人保健施設わたつみ苑へ名称変更されています。

観音寺・三豊地域の総人口の推移は減少傾向ですが、高齢者数は増加しています。観音寺市・三豊市の高齢者福祉計画第8期介護保険事業計画によると、2025年には観音寺市の高齢化率は34.1%、三豊市の高齢化率は37.0%に達する見込みとされています。

入所および短期入所の定員は80名、通所リハビリの定員は45名で、介護予防も実施しています。当施設は病院併設型のため、病院との連携も十分に行いながら、医療、看護、介護、リハビリ等の提供のほか、口腔ケア・栄養マネジメントにも力を注いでいます。また、病院に組織されている栄養サポートチーム（NST）やポリファーマシーチームと連携することで、効果的な薬学的介入にも力を注いでいます。

薬剤師については1名が病棟業務との兼務で配置されており、調剤のみならず、服薬支援などを含めた薬学的管理を行っています。

わたつみ苑での薬剤管理方法

当施設の入所者の薬剤管理については、まず入所時に持参薬鑑別を行います。担当薬剤師は鑑別結果をカルテへの記載に加え、担当医師の負担軽減を目的に、持参薬の内容を電子カルテ上に事前に処方登録する、持参薬オーダーも行っています。入所後は担当医師の指示により持参された薬剤を継続服用するケースが多いですが、持参薬がなくなった後は、担当医師が持参薬オーダーを参考に、円滑に処方することが可能です。

処方内容は、持参薬の内容と相違がないか、担当薬剤師が確認を行います。当院で採用のない薬剤に